



# 教育研修

「梅祭り」令和元年五月八日実施  
開拓当初、福島県より持参した「梅の木」を囲み、  
地域のみなさんと共に、先人の苦勞を毎年しのんで  
います。梅の木は、旭川市の天然記念物にも指定さ  
れており、桜と同時期の開花となります。(雨天の  
ため学校内にて)

## おもな内容

随 想	1
研修講座寸描	2～5
出前講座寸描	5～6
令和2年度開催予定講座	7～8
研究の成果と課題、 研究協力校の実践	8～10
当研修センターの貸室案内	10

## 随 想

### 地域資源を生かした「感性」の育成



上川教育研修センター組合教育委員会  
教 育 長 黒 藤 真 一  
(旭川市教育委員会教育長)

これまで旭川市の総合計画の策定に二度ほど関わってきた。計画づくりは、現状の課題整理から始めるのが常套手段であるが、将来の理想とするまちの姿からアプローチすると違った発想が湧いてくる。

まちづくりは、単に地域の課題を解決するだけでなく、将来を見据え地域の特性や魅力をどう創造し実現していくかが大切であり、その担い手が重要となってくる。

また、社会的にも、予測不可能な激変する将来に向けて、これまでの課題解決型の人材から、新たな社会や価値を創造していく人材が求められている。

今日、まちづくりや社会の構築を進めていく上で、創造性あふれる人材の存在が不可欠であり、その人材を育成する教育の役割は重要性を増してきている。

さて、今後、AIが急速に発達し、これまで人類が蓄積してきたあらゆる知識情報がネットワーク化され、ある課題解決のため、一瞬で、その解が提供されることとなると思うが、果たしてAIが、新しい社会や暮らしの提案をしてくれるのだろうか。人間が心豊かに人生を過ごすための提案、生きていく喜びや価値の提案をしてくれるのだろうか。疑問が残るところである。

そう考えるとAI時代の人間に求められるものも、やはり、新たな社会や暮らし、生き方を創造していく力であり、そのためにも、人間がもつ感性を磨いていくことが必要だと思う。

以前、購入した『センス・オブ・ワンダー』(レイチエル・カーソン著、新潮社)という書籍の帯に、「美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性を育むために、子供と一緒に自然を探検し、発見の喜びに胸をときめかせる」と記してあった。

ここ旭川、上川の地域には、明瞭な四季が織りなす彩とりどりの自然、石狩川水系や大雪山系に抱かれた多様な自然、そうした自然と風土に育まれてきた文化と暮らしがある。また、農業・林業・畜産業など自然との関わりが深い産業もある。

こうした他に誇れる素晴らしい自然と恵まれたフィールドの中で、子供達が多々の経験を通じて、鳥のさえずりや虫の音、雪の感触、草花の色彩、土の匂いや温もり、生き物の成長などを感じる豊かな感性を育むことができる。

今や感性は、社会が目指すべきSDGsやESDの取組、経済界が提言しているデザイン思考やSTEAM人材の育成にもつながる重要なキーワードとも言える。

恵まれた地域資源を活用し、地域との関わりを深め、地域に愛着と誇りをもてる人材や、これからの社会を創造していく感性豊かな人材を育てる上で、上川地域には絶好の環境が整っている。ふるさと旭川、上川の自然で育まれた感性と好奇心・探求心をもった子供達が、将来の社会で大いに活躍することを願っている。

本校では、「習得した知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を高める生徒の育成」というテーマと主体的な学びによる授業改善を通して」というテーマのもと研修を進めています。令和元年より生徒全員が一人一台iPadを活用しています。一人一台ずつタブレット端末を持つことで、調べ学習やプレゼンテーションなどの質・スピードが上がり、情報活用能力や学習理解度を効果的に高めることができている。また、各教科等において、単元を通してiPadを活用する継続した取組によって、思考力・判断力・表現力を向上させることにつなげています。(比布町立比布中学校)



## センター日誌

11月6日	研修事業拡大会議
12月2日	センター運営協議会
12月10日	冬季拡大研究室会議
12月24日	1月7日
12月24日	研究室冬季集中研
12月24日	冬季合同所員研
12月24日	センター組合教育委員会議
1月15日	センター組合協議会定例会
2月3日	センター研究発表会
3月1日	センターだより第134号発行
3月31日	令和元年度研究紀要第45号発行(予定)
4月1日	令和2年度研修講座開催要項発行(予定)

### 研修講座寸描

#### 講座の様子から

小中のつながりを意識した二つの授業を参観させていただき、学習過程における問題提示の方法と内容の工夫について学ばせて頂きました。御指導ありがとうございました。

(士別市立多奇中学校 林 尚輝)



### 13 算数・数学科指導 7/26・8/29

#### 講師

谷地元直樹 北海道教育大学 旭川校 准教授  
阿部 光宏 (近文第一小 教頭)  
松島 絵里 (陵雲小 教諭)  
大塚 健之 (春光台中 教諭)

### 12 国語科指導 7/25・9/3

#### 講師

渥美 伸彦 北海道教育大学 旭川校 准教授  
千葉 折恵 (東栄小 主幹教諭)  
上田 達也 (大有小 教諭)  
岩城 卓也 (忠和中 教諭)

今回、「書くこと」の授業づくりについて教えていただきました。特に、構想段階でピア・カンファレンスを行うことで、子供達の思考が整理されていく様子を実際に見ることができ、勉強になりました。ありがとうございました。

(富良野市立扇山小学校 梅原麻由美)



### 24 外国語(英語)指導 8/9・9/4

#### 講師

笠原 究 北海道教育大学 旭川校 教諭  
明石 和則 (啓北中 主幹教諭)  
藤田智香子 (永山小 教諭)  
西崎 雅俊 (神居東中 教諭)

二日間の研修でコミュニケーションを図る資質・能力を育てる外国語活動の実践場面を学ばせて頂きました。小中学校のつながりの必要性や今後の授業づくりが役立ちました。授業公開・御指導ありがとうございました。

(剣淵町立剣淵小学校 高橋 卓広)



### 25 校内研修 9/4

#### 講師

鈴木由美子 (豊岡小 校長)  
小林 博子 (豊岡小 教諭)  
橋本 拓志 (豊岡小 教諭)

講義や提言では、具体的に分かりやすい資料を示していただき、校内研修の在り方や重要性を学ぶことができました。また、実践をもとに行われた研究協議でも様々な角度から検証された視野を広げることができました。

(美深町立美深中学校 福原 富子)



(3)

14 生活科・総合的な学習の時間 7/26・9/5

小野 敦司 (未広北小 校長)  
 中島 康博 (春光小 主幹教諭)  
 佐藤 由美 (未広北小 教諭)  
 鏡 拓也 (永山中 教諭)

講師



生活及び総合的な学習の時間の充実を求めて、児童の探求的な学習態度を育てる指導の手立てを学ぶことができました。また、研究授業を通して、子供の思いを見取る大切さを見て感じることができました。御指導ありがとうございました。(旭川市立大有小学校 外山 和湖)

26 ICT活用 9/10



中村 直行 (忠和小 教頭)  
 佐々木 玲 (北光小 教諭)

講師

ペーパーに自己紹介させるプログラミング授業では、タブレットを協働で操作させ、論理的に考えることの大切さに気付かせる大変興味深い授業でした。また、実技では授業で有効に活用できるアプリ等が紹介され、大変参考になりました。(愛別町立愛別中学校 木本 太)

27 技術・家庭科指導 9/25

川邊 淳子 (北海道教育大学 教授)  
 上代 洋子 (神楽中 教諭)

講師



商品の選択と購入の研究授業では、生徒に身近なTシャツを題材にした課題設定が参考になりました。講義・実技では、新学習指導要領の特徴を確認でき、今後の授業のイメージや見通しをもつことができました。ありがとうございました。(中川町立中川中学校 高橋美智子)

28 国際理解教育 10/7



岸 政継 (東川小 校長)  
 黒滝 裕子 (北鎮小 教諭)  
 中村 徹 (近文第一小 教諭)

講師

講座の中で国際理解教育のねらいと現状を分かりやすく情報提供していただき大変参考になりました。また、地域の実態に応じた実践の在り方について、校種をこえて意見交換ができ、貴重な経験となりました。ありがとうございました。(旭川市立朝日小学校 西岡 潤二)

29 学校・家庭・地域の連携 10/8

吉村 公孝  
櫻井 貴志  
得能 敏宏

北海道教育庁学校教育局義務教育課  
子ども地域支援グループ 主査  
伊達市教育委員会教育部  
北海道CSアドバイザー  
北広島市立西部  
中学校 教頭

講師



CSにおける「熟議」の大切さを再確認することができました。また、多様な職種の方との演習を通して、それぞれの立場の思いや願いを実感することができました。今後、講座内容を参考に、本町のCSの充実に取り組みたいと思います。  
(東神楽町教育委員会教育推進課副参事 米津 洋伸)

2 特別活動② 10/9



研究会を通して、「児童生徒相互の望ましい人間関係を育てる指導」について具体的な手立てを学ぶことができました。私自身の今後の学級経営に役立てていきたいです。御指導ありがとうございました。  
(南富良野町立南富良野小学校 小林加奈恵)

鈴木 康弘 (士別南小 校長)  
薬師寺要次 (東光小 主幹教諭)  
亀島 秀元 (旭川小 教諭)  
中本 厚 (神楽中 教諭)

講師

研究授業と研究協議から、学級会を通して、「児童生徒相互の望ましい人間関係を育てる指導」について具体的な手立てを学ぶことができました。私自身の今後の学級経営に役立てていきたいです。御指導ありがとうございました。

21 社会科指導 8/7・10/10

坂井 誠亮  
二階堂貴裕  
蛭名 祐介  
末次浩二郎

北海道教育大学  
旭川校 教授  
近文小 主幹教諭  
(忠和小 教諭)  
北星中 教諭

講師



講話や授業の参観を通して、子供達と社会的事象との出合わせ方について、新たな方策を知り、手立てを考える大切さを実感しました。自分の実践を見つめ直し生かしていきます。貴重な学びの場を用意していただきありがとうございます。  
(旭川市立中央中学校 畑島 圭佑)

31 ミニ道研B 7/19

北海道立教育研究所による遠隔研修

講師

(旭川市立東光小学校 山本 明里)



授業づくりや学級経営の基本について、実践を通して示していただき、今後の課題が明確になりました。また、子供を褒めること、気持ちを受け止めることの重要性についても考えることができました。御指導ありがとうございました。  
(旭川市立末広北小学校 佐々木理恵)

30 ミニ道研A 6/14

浅部 航太  
山寺 潤

北海道立教育研究所  
主任研究研修主事  
北海道立教育研究所  
研究研修主事

講師

プログラミング教育のねらいから実際の授業まで丁寧に教えていただき、理解を深めることができました。また、模擬授業を受け、プログラミングを位置付けた授業の具体的なイメージをもつことができました。ありがとうございました。

(5)

32 書に親しもう 1/8

河治 宣人 (旭川小 主幹教諭)

講師 II

(富良野市立樹海中学校 荻野 絵美)

今まで書道の楽しさが分かりませんでした。この研修を受け、黒と白の世界を自由に表現することの楽しさがよく分かりました。生徒たちにもこの楽しさを伝えられるよう精進したいと思います。御指導ありがとうございました。



33 絵に親しもう 1/8

村田 靖彦 (愛宕中 主幹教諭)

講師 II



(旭川市立 西神楽小学校 瀬戸まどか)

切り絵の基本的な制作方法の他に、図工で扱う材料や用具についての情報もいただけて、今後の児童との活動や学級設営に生かしていこうと思います。他の先生方の作品を見せていただいたのも良い刺激になりました。御指導ありがとうございました。

出前講座寸描

講師: 伊藤 健治 (西神楽中 教諭)

子供達に情報活用能力を培うためのプログラミング教育の基礎知識を学ばせていただきました。また、実習を通して児童の立場となり、プログラミング的思考を育む活動を考えることができました。御指導いただきありがとうございます。

(美瑛町立美瑛小学校 村上 唯)



比布中学校「道徳授業の在り方・評価」 9/25

講師: 西川 博康 (北門中 教諭)

道徳の授業の充実に向けた具体的な視点を示していただき、今後の授業改善に役立てたいと思えました。また、評価について今日的な動向を踏まえてお話しいただき、理解が深まりました。御指導ありがとうございました。

(比布町立比布中学校 東 加奈絵)



美瑛小学校「プログラミング教育」 9/19

士別南中学校「対話的な学び・ICT」 10/15

講師: 梶田 貴裕 (比布中 教諭)

具体的実践例から、生徒の成果物や実際の姿を示していただき、明確に指導のイメージをもつことができました。特にICT活用では、目標を達成する際の手段として用いる重要性を改めて感じました。御指導ありがとうございました。

(士別市立士別南中学校 平川 隆人)



青雲小学校「特別支援教育」 10/30

講師: 橋詰 郁朗 (旭川盲学校 教諭)

漢字の読み書きが困難な子供の状況を、疑似体験を交えて学ばせていただきました。文字の見え方や児童の特性に応じた、すぐに活用できる支援ツールも教えていただき、実践に生かしていこうと思えました。御指導ありがとうございました。

(旭川市立青雲小学校 中山あゆみ)



愛宕中学校「特別支援教育」

10/31



【講師】**伊藤 健治**(西神楽中 教諭)  
 今回の講座では、「プログラミングは中学校での学習。小学校はプログラミング的思考を身に付けさせる。」と、教えていただいたことが印象的でした。自分自身、目的を間違えないよう努めて参りたいと思います。御指導ありがとうございました。  
 (土別市立土別小学校 齋藤 博史)

【講師】**松岡 剛**(上富良野町教育委員会 主任臨床心理士)  
 心理的支援を行う際、どのような視点から問題を見る必要があるのかを考えることができました。これからは、「解決の手掛かりは話し手の側にある」という考え方のもと生徒指導にあたっていききたいと思えます。ありがとうございました。  
 (旭川市立愛宕中学校 佐藤 龍)

土別市教育委員会(土別市立土別小学校)「プログラミング教育」

10/31



【講師】**伊藤 健治**(西神楽中 教諭)  
 今回の講座では、「プログラミングは中学校での学習。小学校はプログラミング的思考を身に付けさせる。」と、教えていただいたことが印象的でした。自分自身、目的を間違えないよう努めて参りたいと思います。御指導ありがとうございました。  
 (土別市立土別小学校 齋藤 博史)

上富良野町教育委員会「特別支援教育」

10/31

**出前講座、御活用  
 ありがとうございました**

今年度は20の学校・団体に御活用いただきました。ありがとうございました。  
 道徳科、プログラミング教育実技指導、実技指導など、各学校の御希望に合わせ講師の先生を選定させていただき、講座を運営することができました。  
 次年度もどうぞよろしくお願ひします。



【講師】**目良 久美**(美瑛町教育委員会 特別支援教育担当課長補佐)  
 講話の中で、スクラムを活用した地域ぐるみでのサポート体制を紹介していただき、積極的にスクラムを活用した指導計画の立案や記録の更新が、より良い支援に直結していくことを学びました。御指導ありがとうございました。  
 (上富良野町立上富良野西小学校 藤田 圭吾)

**令和2年度 講座開設の工夫**

- (1) 第16次推進計画の基本方針に沿い、教職生活全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
- (2) 教育経営研修では、教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力の充実を目指す講座を開設する。
- (3) 教育指導研修のうち、「幼保小連携教育」講座では、小学校との滑らかな接続を図り、学びの連続性を重視する。また、研修事業第17次を見据え、「生徒指導」講座の1日目を午後半日日程、「特別活動」講座を1日日程として、短期集中での講座を開催する。
- (4) 教育課題研修では、多くの今日的教育課題に対応するため、年度ごとに課題を設定する「学校力向上対策」講座を継続する。「教育講演会」は、今日的教育課題解決を目指して開設する。
- (5) 教科等指導研修では、小中間の連携を図るため、各校種合同で理論研修を行うとともに小中それぞれの授業研究を行う。
- (6) 教科実技研修では、授業研究を重視する。また、「ICT活用」講座でも、授業におけるICT機器の活用を重視し授業研究の充実を図る。
- (7) ICT実技研修では、これまでどおり「表計算」「タブレットPC」を2本柱に講座を開設し、時代のニーズに応えるため「プログラミング」についての講座も開設する。また、全講座で複数講師による少人数指導で対応するとともに、全講座を半日日程で開設する。
- (8) 北海道立教育研究所と連携し、「ミニ道研」を開催する。
- (9) 期限付教員の指導力向上のため、各講座への積極的参加を勧める。
- (10) 講座開設情報は、開催要項に加え、「センターだより」、Webサイト、電子メールによる講座案内等により広く提供していく。
- (11) 講座運営に関する各種資料、関係図書の利用性を図られる資料室の充実に努める。

## 令和2年度 上川教育研修センター開催予定講座

番号	講座名	期日	研修内容	授業
1	生徒指導	①5/12(半日) ②9/24	「生徒指導における円滑な接続を図る小中連携の在り方」(②で授業研究)	小・中
2	特別支援教育	①5/13 ②6/11	「障がいの特性に応じた指導の充実と校内支援の在り方」(②で授業研究)	中・小
3	書写指導(実技)	6/4	「硬筆と毛筆を関連させ、日常に生かす態度を養う学習指導」(授業研究あり)	中
4	読書活動	6/10	「児童生徒が進んで読書に取り組むための工夫」 ～朝読・家読等の取組～(授業研究あり)	小
5	学校経営Ⅰ	6/11	「新しい時代を創造する学校経営の在り方」	
6	保健安全指導	6/30	「児童生徒の心の発達と支援の在り方」(授業研究あり)	中
7	複式教育	7/7	「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましく生きる力を育む複式教育」 ～主体的な活動を促す指導と評価の在り方～(授業研究あり)	小
8	音楽科指導(実技)	7/8	「音楽の特徴や曲想の違いを感じ取る指導の工夫」(授業研究あり)	中
9	ICT活用	7/9	「ICTを効果的に活用した学習指導の在り方」 ～各種機器の効果的な活用～(授業研究あり)	中
10	図工・美術科指導(実技)	7/15	「基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う学習指導」 ～「絵や彫刻など」における指導～(授業研究あり)	小
11	国語科指導	①7/28 ②9/2	「言葉による見方・考え方を働かせ、適切に表現する力を育てる国語科指導」 ～「読むこと」における指導～(②で授業研究)	小・中
12	生活科・総合的な学習の時間	①7/28 ②9/8	「『生活科』及び『総合的な学習の時間』の充実を求めて」 ～探究的な学習態度を育てる指導の充実～(②で授業研究)	小・中
13	理科指導	①7/29 ②10/1	「理科教育における今日的な課題とこれからの理科教育の方向性」 (②で授業研究)	小・中
14	幼保小連携教育	7/29	「小学校への滑らかな接続を目指す幼保小連携教育の在り方」 ～連携・交流活動と学びの連続性～	
15	道徳科指導	①7/30 ②9/25	「児童生徒の道徳性を高める道徳授業の在り方」 ～多面的・多角的に考える授業と評価について～(②で授業研究)	小・中
16	算数・数学科指導	①7/31 ②10/1	「進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる授業の在り方」 (②で授業研究)	小・中
17	外国語(英語)指導	①8/3 ②10/8	「コミュニケーションを図る資質・能力を育てる外国語(英語)指導の在り方」 ～「読むこと」・「書くこと」の指導と評価～(②で授業研究)	小・中
18	学校事務実務	8/3	「学校事務における今日的課題」 ～学校事務に求められている課題、事務改善の取組～	
19	教育相談(いじめ・不登校等)	8/5	「『教育相談』の在り方」	
20	社会科指導	①8/6 ②10/9	「社会的事象の意味を考え、表現する力を育てる指導の工夫」 ～情報交換する活動(言語活動)～(②で授業研究)	小・中
21	学校力向上対策	8/6	「今日的な教育課題の解決を図る学校力向上対策」 ～人材育成と組織活性化を図る学校組織マネジメント～	
22	学校・家庭・地域の連携	9/1	「子どもたちの生きる力を育むための学校・家庭・地域の連携」	
23	校内研修	9/16	「研修の成果と生かし方」(授業研究あり)	小
24	技術・家庭科指導(実技)	9/24	「生活をよりよくしようと工夫する態度を育てる指導の在り方」 ～計測・制御(プログラミング)～(授業研究あり)	中
25	学校経営Ⅱ	9/28	「スクールリーダーとしての教頭の在り方」	
26	体育科指導(実技)	10/2	「体づくり運動、器械運動」(授業研究あり)	中
27	国際理解教育	10/7	「国際理解教育の実践の工夫」 ～学校や地域の実態に応じた指導～(授業研究あり)	中
28	特別活動	10/8	「家庭や地域社会との連携を重視した指導」(②で授業研究)	小
29	教育講演会	11/2(半日)	講師 西岡加名恵氏(京都大学) 演題 「『資質・能力』を育成するパフォーマンス評価」	
30	ミニ道研A	6/15	北海道立教育研究所による対面研修 「保護者との良好な関係づくり」「プログラミング教育」	
31	ミニ道研B	7/17	北海道立教育研究所による遠隔研修 「授業作りの基礎(指導方法、評価等)」「生徒指導の昨日を生かした学級経営」	
32	書に親しもう	1/8(午前半日)	「毛筆で心を伝える作品制作(小品)」 ～心に残る言葉を題材にした作品づくり～	
33	絵に親しもう	1/8(午後半日)	「水彩画で心を伝える作品制作(小品)」	
34	センター研究発表会	2/2	「深い学びを実現する学習指導の在り方」に関する第18次3か年計画の1年次の研究を発表 ～センター研究員の実践、研究協力校の実践～(午後 半日日程)	

～詳細日程は、4月にお届けする「研修講座開催要項」で御確認ください。～

## 令和2年度 ICT (旧パソコン) 実技研修講座 開設について

新学習指導要領では、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力のひとつとして位置づけられ、これまで以上にICTに関する内容が重要視されています。また、働き方改革においてもICTの活用が求められる、校務においてもこれまで以上に教職員にICTに関する研修が求められるようになりまし。

そこで、次年度のパソコン実技研修講座においては、次の3点について大きく変更いたします。

### ①名称をパソコン実技研修講座から「ICT実技研修講座」へ

これまでのPCの操作を中心とした研修から、タブレットPCの活用や小学校プログラミング教育への対応など多方面への内容にシフトしている現状から、名称を変更いたしました。

### ②全講座を半日日程へ

受講者の先生方のニーズや昨今の働き方改革への対応として、全講座を半日日程といたします。なお、授業中は午後から、長期休業中は午前をメインに実施いたします。

### ③「ICTを活用した働き方改革講座」を新設いたします

各種クラウドサービスやタブレットPCを活用し、校務の効率化を図り働き方改革を推進する研修講座を新設いたします。

今年度同様に表計算ソフト(エクセル)の講座やタブレットPCの講座につきましては受講者のニーズを踏まえ、これまで同様に多くの講座を開設いたします。また、次年度より完全実施となる小学校プログラミング教育に関する講座も今年度同様開設いたします。

上川管内の先生方のニーズをお聞きし、今後も魅力ある講座となりますよう、工夫改善をして開設してまいります。多くの御参加をお待ちしております。

### 令和2年度 ICT実技研修講座 開催日予定

A	6/1, 7/28	校務のための表計算入門	エクセルの基本的な使い方や表計算の概念について(初級者向け)
B	6/5, 11/6	校務のための表計算活用	IF関数やVLOOKUP関数など、実際の校務で使うであろうテクニックや応用(中級者向け)
C	6/16, 11/27	校務のための表計算活用/個別課題解決	日常の校務で使用しているデータ処理の疑問や課題を解決
D	7/27, 11/18	授業のためのプログラミング入門	小学校プログラミング教育の基本的な解説およびプログラミングの実習
E	8/5, 1/13	学校で役立つタブレットPC入門	タブレットの基本的な使い方について
F	8/5, 1/8	授業で役立つタブレットPC活用	タブレットを授業で効果的・効率的に活用する方法について
G	6/8, 7/27	ICTを活用した働き方改革講座	クラウドサービス等を校務で効果的・効率的に活用する方法について

上川教育研修センターでは、理論研究と実践検証を行った結果、3年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

### 成果

- ①単元構成を行う際に、具体的に示した「深い学び」の4つの姿を意識して、単元構成を行ったことで、より「深い学び」を充実させることができた。
- ②単元を通して振り返り(自己評価)を継続して行うことにより、自分が理解できたことやできなかったこと、単元を通して身に付けた力や今後その力を発揮する場面などについて児童生徒自身が自覚し、より主体的に学ぶ態度を育むことができた。
- ③対話的な学びにおいて、目的や方法を明確にすることにより、自分の考えに自信をもったり、新たな視点からの考えに気付いたりするなど、児童生徒の考えを広げたり深めたりすることができた。また、そのことにより本時や単元の目標の達成に近づくことができた。

### 課題

- ①自分の考えを違う視点から捉え直したり、考えの更新や再構成を図ったりするために、対話の場や形態をさらに工夫する必要がある。
- ②単元や本時の目標に迫るために、研究の中心にある対話だけに着目しすぎるのではなく、単元のまとまりを見通して、児童生徒の姿で授業を捉え、改善する必要がある。

詳細は、3月発刊の研究紀要第45号を御覧ください。

研究室だより

今、研究室では

第一七次研究 三年次

研究主題「深い学びを実現する学習指導の在り方」  
各教科における主体的・対話的な学びを通して



## 協力校 の実践

「事象を数理的に捉え、課題を自立的、協働的に解決する学習」

旭川市立啓明小学校第二学年 算数科

授業者 広瀬和哉

### 一 深い学びを充実させる視点

知識を相互に関連付けてより深く理解する姿を目指すために、既習内容や経験に関連付けた思考の促進を重視した。

一時間目には、児童にとって身近な問題を提示し、単元の見通しをもたせる場面を設定した。二、五時間目は、かさを実際に測定する場面、六時間目は、かさの計算方法を学ぶ場面、そして、七時間目には、学習してきたことを生かして問題解決する場面を設定した。

### 二 本時の目標

かさの計算を使って、節水できる水のかさについて考えることができる。

### 三 「対話的な学び」に関わる教師の手立て

#### 対話の目的【論点の明確化】

「水の量をどのように測ればよいのか」「節約できる水の量はどのような計算すればよいのか」の二つを、問題解決に向けた論点として対話した。

#### 対話の方法【互いの考えの可視化】

集団思考の場面において、グループで考えた計算方法をホワイトボードに書き、黒板に掲示した。共通点や相違点をポイントにして計算過程の比較・検討をさせた。

### 四 本実践の成果と課題

一時間目に「水を節約して水槽の水をきれいにする」という問題場面を提示したことで、学習への意欲を喚起することができた。ホワイトボードの活用により、共通点や相違点に気付き、お互いの考えを理解することができた。計算方法を考える個人思考の場面では、考えをしつかりとすることができない児童がいたため、見通しの段階で節約の意味を十分押さえさせる必要があった。



## 協力校 の実践

「よりよい発表会に向けて、自己の課題を主体的に解決していく学習」

旭川市立愛宕東小学校第二学年 国語科

授業者 宮本莉奈

### 一 深い学びを充実させる視点

知識を相互に関連付けて情報を精査して考えを形成する姿を目指すために、児童が思考し問い続ける過程を重視した。

一時間目には、「思い出に残る発表会にしよう」という目標を共有し、児童が課題に向かつて思考を連続させていく姿を目指した。

四、五時間目には、自分が伝えたいことを考えたり、友達の知りたことを尋ねたりする時間を設定した。六時間目には、交流活動での対話を生かして発表内容を再構築する時間を設定し、児童が発表会に向けて主体的に学習を進められるようにした。

### 二 本時の目標

道具について友達を知りたいことを尋ねる活動を通して、よりよい発表内容についての見通しをもつことができる。

### 三 「対話的な学び」に関わる教師の手立て

#### 対話の目的【論点の明確化】

「よりよい発表にするために」という対話の方向性のもと、「聞き手の知りたいこと」を論点として対話をさせた。

#### 対話の方法【互いの考えの可視化】

発表内容に対する考えを再構築させるために、ワークシートを用いて、自分が伝えたいことと友達が知りたいことを比較させた。

### 四 本実践の成果と課題

「自分が伝えたいこと」と「相手を知りたいこと」の比較が、児童に相手意識をもたせ、自分の発表内容を再構築しようとする姿の実現につながった。

交流活動に対する目的意識をもつことができ、交流活動で見られたため、モデルによる示し方や児童の思いや実態に基づいた交流活動を吟味していく必要がある。



**協力校  
の実践**

既習事項を活用して、関数関係を  
グラフで表し、多面的に考察する学習

士別市立士別南中学校第二学年 数学科

授業者 松岡 史倫

一 深い学びを充実させる視点

知識を相互に関連付けてより深く理解する姿を目指すために、既習事項を関連付けた思考の促進を重視した。

単元の一々八時間目は式・表・グラフについて学習し、比例や一次関数と比較させるなど、既習事項を振り返る場面を設定した。九時間目以降の活用問題では、本単元の既習事項を必要に応じて振り返らせた。十二時間目は、日常的な場面における問題について、中学校三年間で学習してきた関数の知識を活用する問題を設定し、関数の良さを味わうことができるようにした。

二 本時の目標

関数関係にある二つの数量の関係について、グラフを活用しながら問題を解決することができる。

三 「対話的な学び」に関わる教師の手立て

対話の目的【論点の明確化】

「自分の考えに自信をもったり、新たな考えに気付いたりする」という対話の方向性のもと、グラフを活用しながら「プランを選んだ理由」を論点として対話をさせた。

対話の方法【場や形態の設定】

全員が自分の考えを発信したり、考えを比較したりするために、小集団での話し合いの場面を設定し、対話させた。

四 本実践の成果と課題

単元を通して、必要に応じて既習事項の確認を行うことで、深い学びにつなげることができた。

本時は、解決する材料を「グラフ」に限定したこと、他の考えが比較しやすくなり、自分の考えを広げることができ活動となった。さらに学びを深めるために練習問題の吟味が必要である。



令和2年4月からの新料金です

**貸室使用料〔一般〕**

(教職員等、「承認団体」が研修等で利用する場合は、下記金額の半額)

室名	午前(9~12時)	午後(13~17時)	夜間(18~21時)
講 堂	2,750円	3,080円	4,400円
講 堂 A・B	1,380円	1,540円	2,200円
研修室/会議室	1,100円	1,320円	1,870円
和 室	550円	660円	880円

**冷暖房料** (冷房料金7月1日~8月31日, 暖房料金10月1日~5月31日)

室名	午前(9~12時)	午後(13~17時)	夜間(18~21時)
講 堂	1,100円	1,320円	1,650円
講 堂 A・B	550円	660円	830円
研修室/会議室	550円	660円	880円
和 室	330円	330円	330円

\*冷房料は講堂と第1研修室のみ

**宿 泊 料**

2,750円 [暖房料・一部屋] 4,400円

\*研修講座受講者、「承認団体」等が行う研修に伴う宿泊者、小中学生は1,320円

**利用上のお願**

会場利用にあたっては、右記の時間内での使用を守っていただくようお願いいたします。

また、当日の混雑状況によっては、当研修センターの駐車場に駐車できない場合があります。予め御承知おきください。

発行日  
責任者  
印刷所

令和二年三月一日  
上川教育研修センター  
〒077-0003  
旭川市六条通四丁目  
電話 〇一六六-二四二五〇一  
株式会社あいわプリント  
佐藤 保

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。